

GMO INTERNET GROUP

2024年12月期 第2四半期決算説明会 質疑応答の要約

2024年8月8日に開催した決算説明会において、参加者の皆さまから頂いた質問をまとめたものです。GMOインターネットグループCFOの安田、グループ執行役員の稲垣より回答させていただきました。なお、一部IR部門にて回答を補足させていただいております。

●インフラ事業

【Q1】 1Qに続きインフラの増益率が前年同期比で強い数字が出ているという印象です。前年同期には一過性の要因もあったかと思いますが、増益貢献が大きかった部門はどこですか？また下半期に向けての持続可能性についても見通しを教えてください

【A1】 個別の話としては、ご指摘のように一時的な費用がこのクォーター計上されていなかったことや、投資している事業が収益化に向かっていること、ブランドセキュリティの事業が収益貢献していることなどの要因がございませう。

(安田)

大きな流れとしては、インフラ事業における各事業の岩盤ストック収益基盤がより強固になっているということ、そして長年のインフラ事業の実績評価として「インフラビジネスであればGMO」というご評価が主要な流れを後押ししているという印象です。

●株主還元

【Q2】 自己株取得枠について、第2四半期で増額された理由を教えてください。

【A2】 大きく2点あります。1つは事業面で、力強いインフラ事業の成長に対するマネジメントの自信の表れです。もう1つは、マーケットの状況を踏まえ、投資すべきタイミングであると判断したためです。

(安田)

●持株会社体制への移行

【Q3】 吸収分割によって移管される、GMOインターネットグループ事業部門の業績について規模感など、どう考えればよいか教えてください。

【A3】 2023年度の実績では、売上高615億円、営業利益61億円の規模感となります。進捗期においても、ドメイン、ホスティング、アクセスといった岩盤ストック収益の積み上がりにより継続して成長しています。ただし、監査証明を受けていない参考値であることはご注意ください。

(稲垣)

【Q4】 今回の再編に関して、GMOアドパートナーズへの吸収分割というスキームを選んだ背景を教えてください

【A4】 超長期目標である55ヵ年計画の実現に向け、インターネット革命後半戦をどういうフォーメーションで戦っていくべきかということから議論を始めました。まず、GMOインターネットグループ社自体が事業持株会社から持株会社化するというベースがありました。その後に事業の移管先として、今後の持続的な成長に向け事業上のシナジーや、事業ストラクチャーを含めてどういう形が望ましいかを総合的に判断して今回のスキームを選択しました。

(安田)

GMO INTERNET GROUP

【Q5】 新生GMOインターネット社がプライム市場に上場し続けるためには、株式売却が必要になるかと思えます。そこで生まれた株式売却益のアロケーションについて、現時点でどう考えていますか？

【A5】 2026年までに35%の流動株比率を作る必要があります。そのための方法としては、一般的には増資、売却、株式を使ったM&Aなどが考えられます。株式売却により、今後非支配株主持分の流出が発生することは明らかなので、それに見合う成長を実現する、あるいはそれ以上の成長に見合う資金の使い方や資本政策を考えていきます。成長には事業による成長だけでなく、EPSの成長の視点も含めて総合的に考えていきます。

具体的な内容については、きちんとお伝えできる状況になった際にお話しさせていただく予定です。

●その他

【Q6】 暗号資産マイニング事業の展開で得られた教訓と、それがAIロボティクス事業の展開で生きるのかどうか教えてください。

【A6】 暗号資産マイニング事業からの学びとして、チャレンジすべき領域の見定めとリスクアセットの規模を、バランスシートを見ながらきちっとマネジメントしていく必要があるということがあります。一方、AIロボティクス事業に関しては、現状では巨額の投資リスクを持って事業展開する予定はありません。今後のAIロボティクス革命の中で、日本のお客さまに展開する際に、我々が自らのインフラやAIにおけるノウハウを提供することが収益モデルのポイントです。

以上